

会 議 録

会 議 名	第 3 4 期小金井市公民館運営審議会第 1 4 回審議会		
事 務 局	公民館		
開 催 日 時	平成 3 1 年 1 月 2 4 日 (木) 午前 1 0 時から 1 1 時 3 0 分		
開 催 場 所	市役所第二庁舎 8 階 8 0 1 会議室		
出 席 委 員	國分委員長 渡邊副委員長 菅沼委員 雨宮委員 平野委員 吉富委員 酒井委員 杉山委員 畠山委員		
欠 席 委 員	高橋委員		
事 務 局 員	西村公民館長 中川庶務係長 大久保事業係長 小磯緑分館長 岡本主任		
貫井北・東分館 事業運営受託者	N P O 法人市民の図書館・公民館こがねい 村山分館長 鈴木分館長		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	2 名
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会 議 次 第	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 都公連委員部会運営委員会について</p> <p>(2) 公民館事業の報告について</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 小金井市公民館中長期計画策定について</p> <p>3 審議事項</p> <p>(1) 公民館事業の計画について</p> <p>4 その他について</p> <p>(1) 第 5 5 回東京都公民館研究大会について</p> <p>配付資料</p> <p>送付資料</p> <p>(1) 第 1 3 回公民館運営審議会会議録</p> <p>(2) 公民館事業の報告</p> <p>(3) 公民館事業の計画</p> <p>(4) 都公連委員部会運営委員会について</p> <p>(5) 公民館中長期計画将来像 (案)</p> <p>(6) 第 5 5 回東京都公民館研究大会 小金井報告会の開催について</p> <p>(7) 月刊こうみんかん No. 4 8 9</p> <p>(8) KITAMACHI ユース Vol. 4 5</p>		

	(9) ひがしちょう空間 第36号 (10) きたまち空間 第53号 (11) 図書館だより 第49号
--	---

## 会 議 結 果

西村公民館長 公民館長です。おはようございます。本日は部長も間に合えば出席させていただきますので、よろしくお願ひします。

それでは、まず初めに会議録の承認ということで、第13回の会議録を皆様にはお配りしているところですが、ご承認ということでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

西村公民館長 ありがとうございます。

それでは、お配りしてあります資料を庶務係長のほうからご説明させていただきます。

中川庶務係長 庶務係長です。おはようございます。よろしくお願ひいたします。

本日、事前送付でお送りした資料が、ただいまご承認いただきました資料(1)第13回審議会会議録、資料(2)公民館事業の報告、資料(3)公民館事業の計画、資料(4)は菅沼委員が作成してくださっている都公連の運営委員会等について、それから、お配りするタイミングが遅くなりまして申しわけなかったですけれども、送付資料(5)として将来像(案)、資料(6)として、やはり菅沼委員におつくりいただきました小金井市公民館中長期計画について(試案)、それから『月刊こうみんかん』No.489、『KITAMACHIユース』Vol.45、『ひがしちょう空間』第36号、『きたまち空間』第53号、それから『図書館だより』第49号、以上になります。

お手元に資料のない方はいらっしゃいますでしょうか。

國分委員長 大丈夫ですか。

(「はい」の声あり)

國分委員長 ありがとうございます。

### 1 報告事項

#### (1) 都公連委員部会運営委員会について

國分委員長 それでは、報告事項から始めさせていただきたいと思ひます。

菅沼委員 (1)番は都公連委員部会運営委員会の報告ということで、菅沼さん。送付資料(2)をごらんください。前回の公運審の後に、第9回委員部会、役員部会、企画委員会、それから昨日もう一回委員部会と、都公連関係の会議が4回ありました。その簡単な概要です。

都公連については、1枚めくってもらいまして、東京都公民館研究大会が2月3日にあつて、小金井からも35人参加されますが、今、いろいろと詳細を詰めているところです。午前中は基調講演、午後は課題別集会を4つに分かれて行うということで、第1、第2課題別集会は、福生市と西東京市の事例を中心にして話を進める。第3課題別集会は職員部会が担当する。第4課題別集会は委員部会が担当する。こういう構成で今、進んでおります。それについての打ち合わせがほとんどでした。

1ページに戻っていただきまして、第5回委員部会の運営委員会は、委員部会が第4課題別集会を受け持つので、関連の詰めを行ったという

こととございます。一番の問題は、当初、参加人員を40名ぐらいで考えていたんですが、集計してみますと89人申し込みがあったということで、第1希望、第2希望、第3希望をとったんですが、多くの人をほかのところに廻すのも悪いなということで、全部受け入れることにしました。その結果、皆さんが第1希望の課題別集会に行けることになりました。人が増えたので、会場も変えなければいけないとか、やり方も、グループ討議などをやりますと発表の時間も結構なくなってくるとか、いろいろありまして、第4課題別集会の中の内容を詰めたということです。

あと、当日は事例発表が2件あって、ポスター発表が7件あります。非常に盛りだくさんなので、その辺の調整をやりました。

それから、委員部会は各市の情報交換として、公運審の役割、各市どんなことをやっているんだろうかということや議論しようということで、今、議論し始めたところです。時間がなくて、これは次回廻しになりました。

それから、2番目の公民館連絡協議会の役員会です。これは都公連の全体の親組織ですが、1月8日にありました。やはり各部会の報告と第55回公民館研究大会の内容についての打ち合わせが多かったです。

都公連の中には委員部会、職員部会、館長部会、研修担当・調査研修班と5つのグループがありまして、それぞれの報告です。委員部会、職員部会は、課題別集会の報告になります。あと、研修担当というものがありまして、これは私もよく知らなかったんですが、皆さんも当然知らないと思うんですが、都公連は新人職員教育とかスキルアップ研修とか、いろいろ研修をやっています。基本的には、来年もこういうことをきちんとやっていこうということと、それから、もう一つは、研修というものを世の中にあまりきちんと知らしめていないということで、参加市等にももう少し研修の内容を紹介して利用してもらおう、そういうことを来年やっていかなければいけないというような話し合いをしました。

2月3日の研究大会は、先ほど第4課題別集会が89人と言いましたが、第1が71人、第2が58人、第3が48人、トータルで266人ということで、小金井市からは参加者が35人ということで、非常に多い市とございます。

それから、次のページですが、役員部会で基調講演の牧野先生に何を話してもらおうかをもうちょっと詰めようということと、それからもう一つは、都公連の加盟市が11市あります。非加盟市が結構多いんですが、このあたりについて、都公連のメリット、加盟のメリット等をきちんと出して、もっと加盟の促進をやるということを来年のテーマに上げようではないかと。こんな打ち合わせをしました。

それから、3番目の企画委員会は、東大和市が主体となって今回の研究大会を全て取り仕切るんですが、全体の詰めについての打ち合わせをやっております。東大和市で会場を見たり、こういうふうに行ったらいけないとか、いろいろな詰めを行って、2月3日について備えて

いると。

そのような会議で、出た会議はほとんど2月3日研究大会の内容でした。

以上でございます。

國分委員長 ありがとうございます。すごく内容豊富な会議で。

この2月3日の件は、中川様のほうから後で説明があります。ご質問等ありますか。

吉 富 委 員 さっき研修が行われているということでしたけれども、どのような内容で、受講できる対象者はどのようになっているのでしょうか。

菅 沼 委 員 それは毎年募集しているようです。私もはっきりまだつかんでいないので、みんなでわかるような形で、それを一回つくろうということで、次回あたりできると思うんですが、新人職員教育は必ずやります。それから、スキルアップ研修が5回シリーズですかね。講師は都公連の委員が担当になってやっています。それから、学芸大でもう一つワーキンググループをつくってやっているようです。そのようなことを3つぐらいやっています。

私はその辺ぐらいしかまだつかまえていないんですが、次回の役員会のおときには、きちんとその辺の内容を出そうということになっていますので、次回あたり報告できると思います。都公連としてもPRが足りないなという感じがしました。できれば、次回、こんなことをやっていますよと年間スケジュールを出すようにいたします。

吉 富 委 員 ありがとうございます。

國分委員長 ありがとうございます。ほかによろしいですか。

## (2) 公民館事業の報告について

國分委員長 大久保係長さんに公民館事業の報告についてお願いします。

大久保事業係長 事業係長です。お手元にお配りしております送付資料(2)公民館事業の報告をご説明させていただきます。

今回、本館2件、貫井南分館4件、東分館4件、緑分館5件、及び貫井北分館10件、合計25件の事業を報告しております。ご意見、ご感想等ございましたら、よろしく願いいたします。

以上です。

國分委員長 盛りだくさんです。

菅 沼 委 員 菅沼です。意見というか、感想を3点。

1つは、各館で高齢者学級、全部で4つ報告がありまして、それぞれ参加者が多くて非常に盛況で結構だな、仲間づくりに効果を上げているということでいいなということですが、この中で、もし外れたら1年間どうしようとか、そういう記事があるんです。そこまでこの講座が市民の皆さんの生活に溶け込んでいるのかなど。それからもう一つは、外れることを心配しているということは、逆に言うと、どんどん高齢者が増えているので、これからさらに厳しくなるなど。人数は増やしづらいだろうけれども、そのあたりをどうしていくのかということで、非常に

盛況で結構なんですけど、人が多く来たときにどうするかということを考えておかなければいけないのかなと、そのような気がしました。

それから、21ページ、文化祭、学園祭ポスター掲示が貫井北であります。今後、公民館も地域との連携をさらに深めるということで、学校との関連をどうやっていくかというのは非常に大きな問題なんですけど、ここで今回、学校のポスターとか、そういうものを取り上げて、学校と公民館、社会教育施設との間を少しでも結びつけていこう、連携を深めていこうという試みがなされていて、これは非常にいい試みだなというのが、この活動を見た感想でございます。ぜひ学校との連携を深めていくというのをいろいろな形でやっていただきたいなというのがもう一つです。

3番目には、3ページ「家族で乗りこえる『小1の壁』」と、23ページ「子育て・子育て支援—お父さんといっしょに遊ぼう!」という、子どもだけではなくて親を引っ張り出して、子育て・子育て支援をしているような年代、働いているような年代をできるだけ公民館に引っ張り出そうという試み、この辺が幾つか見られてきました。高齢者は高齢者、それから働いている世代、子育て世代への取り組みをこの2つはやっているわけで、そういう点では、活動としては非常にいいのではないかなと。

以上3点、高齢者学級の話と学校との連携、それから、いわゆる子育て世代、働く世代をどうやって公民館に取り込んでいくかという事例として、今言ったような事例は非常に良かったのではないかなと。ぜひそのあたりをさらに進めていただきたいというのが私の感想と希望です。よろしくお願いします。

國分委員長 ありがとうございます。ほかにご感想はありますか。では、よろしいですか。

## 2 協議事項

### (1) 小金井市公民館中長期計画策定について

國分委員長 次にいきます。協議事項に移ります。まず、館長からお願いします。

西村公民館長 公民館長です。それでは、小金井市公民館中長期計画策定についてということで、順次ご説明をさせていただきます。

まず初めに、資料が直前送付になってしまいまして、申しわけございませんでした。冒頭に資料の説明をさせていただいた送付資料(5)将来像(案)です。

これは両面になっていまして、先に、裏の計画の位置づけの図を説明させていただきます。後ほど庶務係長のほうから、将来像(案)の文面の内容についてご説明させていただきます。それから、菅沼委員からも資料をいただいておりますので、その後、菅沼委員の送付資料(6)もご説明をさせていただきます。

資料裏の中長期計画位置づけ図という部分をごらんください。

まず、資料の一番上にありますとおり、市の長期計画であります小金

井市基本構想・基本計画を一番上の上位計画としまして、その中で文化と教育部門に関する施策を具体的に推進する個別計画、小金井市生涯学習推進計画というものがございます。この計画に基づいて、今後策定を進めていくことになろうかと考えています。今後、意見をいただきながら、進めていく際の参考にしていただければと思います。

計画の位置づけ図については、以上でございます。

中川庶務係長

庶務係長です。次に、送付資料（５）の表を返していただきまして、お送りしました将来像（案）について補足の説明をさせていただければと思います。

前回審議会では、中教審の答申ですとか、部長からも市の状況についての説明をさせていただきました。国や小金井市の社会・経済情勢等を背景として、今後の公民館で行うべきことについて、事務局から３つの案をお示ししたところですが、これは将来像ではなくて、もうちょっと具体的な公民館の機能の話ではないのかというご指摘がありましたので、今回は前回審議会でお示ししました案をもとに、今後の公民館のあるべき姿、目指すべき姿としての将来像について、さらに整理したものであるということで資料をおつくりしたことになります。

公民館の計画だけではなくて、全ての計画においては、現状と、皆さんがこうあったらいいなと思うもの、目指すべきもの、目指すべき姿との差をどのように解決していくのかということ、市民の方と一緒に考えているわけですが、公民館中長期計画においても、この後、将来像として目指したい姿をある程度皆さんで共有できた段階で、その目指すべき姿に向かって、どのような施策を打っていくべきなのか、順を追って考えていきたいと思っております。

お送りしました将来像（案）を読むと、さらさらと読めてしまうかもしれないですが、これからの小金井市の公民館の進むべき方向性ですとか、実現すべき姿について示すものですので、本日、まずこの将来像の内容について、ここに示してある方向性は皆さんで納得できるものなのか、おおよそ賛成だけれども、ちょっとここが足りないとか、ここはちょっとおかしいことを言っているとか、そういったことがないかどうか、ゆっくり検討していただきたいと思っております。

将来像は、今年度中を使ってゆっくり考える予定となっておりますけれども、将来像という形で、こちらの審議会等でも、これでいこうと皆さんの決意が固まりましたら、これから考える公民館の施策は、この将来像を実現するためにどうしたらいいのかという視点から考えることとなります。例えば、AとBという事業の２つが実施できそうだが、どちらか１つしか実施できないとなったときに、どちらがより将来像を実現するためにふさわしいのかという視点で取捨選択するときの価値基準になるものとなっております。

それでは、将来像の内容についてですが、皆さん、さらっと読んでいただいたと思うんですが、ちょっと説明させていただきますと、こちらの将来像は、「学びから始める地域のつながりづくり」というキ

キーワードで取りまとめております。これからの公民館においては、地域のつながりづくり、地域づくり、あるいは地域における課題の解決につながる事業を中心に、つながりを生み出していく働きかけに注力していくんだという宣言になっております。これが、この将来像のポイントになっております。

公民館では、戦後からすぐに、長い歴史の間いろいろな活動が行われてきていまして、その特徴としては、単なる地縁、例えばお隣さん同士といったような地縁からなる自治会とか町内会のつながりとも別に、自分の興味・関心のあるテーマといった形で、少し離れた地域の方ともつながるといようなつながりが、公民館の利用団体という形で生み出されてきていたと思っております。住民同士でテーマに沿ったつながり、関心を持ったつながりを生み出すという公民館の機能が、地縁も切れてくる、世帯数も減ってくる、少子高齢化が進んでくるといった社会状況を背景として、新しいつながりを生み出すという機能を持っている。市の中でいろいろやっている活動の中でも、そういった機能の核となる、拠点となるような機能ではないかと考えられるところです。

ほかにも、公民館は生涯学習の拠点ですので、図書館とか学芸大学さんとか市内の大学さんとかとも提携して、学びの機会もいろいろ提供してきたところです。今度、研究大会で菅沼さんからご発表があると思うんですけども、そうやっていろいろ集まった中から、実際に地域に対する活動を開始できたグループも生み出してきたところです。今後、住みやすい市として皆さんに選んでいただくためには、こういった力が必要なのではないかと考えているところです。平成29年7月に公運審からいただいている答申でも、やはり市民力、地域力という言葉を使っておりますけれども、市民力とか地域力の育成の拠点として公民館があるということ、そして、その力を深化していくべきだという答申をいただいております。

教育委員会では、公運審の答申を受けて、新しい時代の公民館のあり方を取りまとめておまして、今後も社会教育、生涯学習を維持・発展させるためには、社会全体の学習機会の確保・拡大、公民館の一つの機能ですよね、これの拡大に努めるとともに、答申で非常に重点を置いておりました地域課題解決学習に力を入れるべきだとしています。これらのことから、今後の公民館においては、誰もが気軽に立ち寄れて自由に学べる機会が多様に豊富にあって、公民館で学んで社会教育団体等の活動で実践する、そこまでの支援を行う機能を強化することを改めて果たすべき役割と位置づけ、学びから始める地域のつながりづくりを公民館の将来像として掲げたいと考えているところです。

こちらからの資料の説明は、以上になります。今回、事務局のほうで、学びから始める地域のつながりづくりとキーワードを出しておりますけれども、これもまだ決まったわけではなくて、もうちょっと違う表現がいいんじゃないとか、1つでは足りないとか、そういったことについても皆さんで思いついたご意見をいただけたらと思っております。

以上です。

國分委員長

ありがとうございます。これについての話は後で、菅沼委員の資料の説明を先にさせていただいて。

菅沼委員

では、すみません。公民館中長期計画についての試案をつくりました。今日みたいな将来案は、基本的には、ざっと文章で並べれば、こういうことになるのかもしれませんが、やはりこれが出てきた背景といいますか、裏づけを少しみんな理解しておいて、この議論をしないといけないという気が私はしております、時間を少しいただいて考え方を説明させていただきたいと思います。基本的には、昨年出した答申案が骨子でありまして、それに最近の情勢とか、あるいは変わった点とか、そういうところを少し入れて考えてみました。

1つは、こういう将来案をつくる時に、今までどういうふうに進んできたかという現状認識が必要だろう。簡単に言いますと、4分の2で上から3行目ぐらいから、小金井市においては、1953年の公民館設置以来、2014年に貫井北センターが開設され、6館の公民館が開設された。その中で、企画実行委員会制度等で市民主体の活動を展開し、専門性の高い職員の支援のもと、学びを通して人と人を結び、人を育て、市民力の向上を図り、個人の課題、地域課題の解決を図り、地域づくりに貢献してきました。これが一つの今までの公民館の役目、活動です。

その結果として、今、非常にうまい公民館の地域配置になっているということで、2枚ぐらい飛ばした後に公民館の配置図があります。これは答申にも入れてありますが、小金井市を分断すると、真ん中に中央線があって、縦に小金井街道がある。その分かれた4つの地域に、各中学校に対応して公民館の分館があります。それから、中央地区で、今まだ仮移転中ですが、公民館本館、休止中の本町分館がある。いわゆる地域に密着した配置になっています。これは非常に特徴的な配置です。こういうバランスのとれた配置は、各市の中でも、今、小金井市だけに近いと思います。このような配置がありまして、ここで薄く円で描いていますが半径1キロ、ですから歩いて十数分で行ける範囲ということで、1キロで結ぶと、ほとんど、市ではどこかの公民館に行けるような配置になっているというのが今の特徴です。

あまり長くやるなと言われておりますので、簡単にいきます。4分の2に戻っていただきますと、公民館の機能、役割があります。今の配置図の次の図を見てください。この前、吉富委員のほうから、できるだけ文章でなくて図であらわしてくれというような要望もございましたので、資料(2)公民館の機能、概念図を、一度こういう図で考えてみようということでつくりました。

真ん中辺に、市民が抱えている課題、地域が抱えている課題、あるいは社会福祉、保健衛生等、各種団体から寄せられる課題、社会問題から寄せられる課題、こういう課題がいろいろあります。そういう課題をテーマ化して講座を企画し、みんな学ぶというのが一つの大きな公民館の役割です。それから、そういう学びの結果として、市民力がどんどん

成長するということがあります。それから、学びを通じて人を育て、人を結び、地域課題の解決、地域づくりに貢献してきたということで、公民館講座から随分多くの人が育ち、多くの団体ができている。そういう団体が行政との間で市民協働といいますか、公民協働と言ったほうがいいのかもかもしれませんが、そういうことで今の市政を助けている。そういう活動が1つあります。

その下に、①で市民の社会参加の窓口になっていますよと。誰でもが気軽に立ち会い、集い、悩みを話し合える場所でしょうと。そういう場というのが必要でしょうと。それから、④として文化創造の場、あるいは市民の交流の場ということで、まとめますと、1番の皆が集い、2番の課題をみんなで学び、3番、人と人を結び、地域課題の解決に結びつける。そういう活動が公民館の機能だろうと。その結果として、市民の生活、人生を豊かにするというのが実現できるのではないかというようなくりにしています。

今後は、一番下に、さらに強化すべき課題として、やはり地域の連携、ネットワークづくりがまだまだ公民館としては弱い。このあたりをどんどんやっていく必要があるだろう。例えば、学校あるいは福祉・保健団体、それから地域の諸団体との連携を深めていって、新しい地域のコミュニティの再構築をやるというのが、公民館の今までの機能と今後の働きではないか。こんなふうにもまとめました。これが公民館の機能です。

こういう機能をもとにして、今後、将来、公民館をどういうふうに育てていくかということがこれからの課題になるかなということで、もう一つ、その次のページに、資料(3)市民活動の中での社会教育の位置づけを書いています。小金井市のいろいろな活動の中で、今、新福祉会館を建てようということをやっております。保健福祉の相談窓口業務を全部ここに統合しようという計画があります。左の幾つかの欄に書いていますが、非常に細分化されて、いっぱいあるんですけども、市民が来たら、どこへ行ったらいいのかなというような感じもしないでもないんですが、このようなセンターがいろいろ乱立しています。このセンターは市民の相談の窓口業務ということで、1人、2人の職員を置いて対応しようという考え方でございます。そういう意味で、いろいろな問題の解決というのは、ここで取り上げてはもらえるんだろうけれども、どうかなと。

もう一つ、やはり地域ということで考えています。地域には、今の社会教育設備、公民館、図書館あるいは公民館と児童館の組み合わせ、公民館と集会施設も入った社会設備もあります。こういう〇〇センターと言われるところが6つ、今5つですが、あります。それ以外に、地域には児童館があり、地域包括センター等の福祉設備、これは8つあるんですかね。それから、集会所、婦人会館、こういうものが地域として自治活動する場としてあります。こういうものの中で、やはり社会教育設備の位置づけをどうするかというのが最終的に必要なんだろうと。そういうことを決めて将来像を決めていくべきだろうという考え方でございま

す。

4分の3に戻っていただいて、公民館の将来像の中で、今、資料で位置づけの概念を説明しましたが、真ん中の下、資料(3)の下に点線で囲ってあるところです。補足しますと、例えば公民館、社会教育設備を今後どう考えるかというのは、いろいろな考え方があります。(仮称)市民活動センターをつくって、市民活動全体を統合できないか。例えば昨年4月に改修した三鷹市の元気創造プラザのごとくに、生涯学習センター、福祉センター、保健センター、子ども支援センター、スポーツセンター、防災センター、こういうものを全部含めたワンストップシッ的な、総合的な市民活動の場をつくるということも考えられたんですが、小金井市においては、新福祉会館の建設基本計画では、保健衛生、福祉、相談窓口サービスを主体とする、社会教育の設備は別に考えるということを議会あるいは建設委員会等で明言しております。だから、こういう考え方はとれない。

それから、もう一つは、2013年に改修した市民交流センターを文化設備として、あるいは2014年に開設された貫井北センターは社会教育設備として、独立して位置づけられています。ですから、1番のような総合的な活動の場をつくるということは、今まで市としては考えられていないということもありますし、やはり社会教育設備は地域に密着したところにあったほうがいだろうということで、私も今のセンターの配置でいいのかなという考えをとっています。こんな考え方があります。

それから、もう一つは、市民の抱えている課題、地域課題の基本的な解決はどこがやるのか。新福祉会館に統合された保健衛生関連部門等は、二、三の窓口の職員だけで、苦情の相談窓口であるということで、これらのいろいろな問題点を解決するにはどこがやるのかということで、それにはやはり公民館で課題を取り上げて学んで、それを各部門に返すとか、あるいはそこから団体をつくって活動していくとか、そういう地域課題の解決型の活動が必要ではないのかということで、相談窓口業務と地域の問題解決型の活動の両輪が要るだろうということで、その後者を公民館、社会教育設備が担ったらどうかというような感覚にしています。

そういうことで、まとめますと、その上に社会教育設備、公民館等を、これは学びを入れてください。学びを通して人を育て、地域課題解決型の活動を主体とした地域の市民活動の拠点と位置づける。これが一番大きなところなんです。今後、さらに学校、福祉、保健衛生関連の諸団体等の地元組織との連携を深め、全ての市民に開かれた交流の場とする。これが最終的な公民館の像ではないかなと私は考えました。

そんなことで、非常にはしりましたけれども、雑駁な説明ですが、考え方は以上です。

國分委員長

ありがとうございます。ただいまの資料で、前に審議会に参加されていない方々のご意見とか、いかがでしょうか。

吉富委員

すみません。前回欠席しましたが、私でしょうか。

國分委員長 いえいえ、前の答申とかも知らない委員の方も多かったので、何かありますか。

吉富委員 今のご説明に対してでよろしいですか。

國分委員長 はい。それでもいいので、お願いします。

吉富委員 ありがとうございます。まず、将来像のところ、将来像というのは、裏面のこの計画の中でどこに位置づくものですか。

西村公民館長 公民館長です。将来像は、裏面の位置づけですと、公民館の中長期計画の中の将来像です。

吉富委員 わかりました。上から順番に、具体的な推進の内容になっているご説明が先ほどありましたけれども、大変大事なことがたくさん書かれていると感じてはいますが、おそらくほかの自治体に置きかえても違和感がないというか、もう少し小金井市だからという特徴が出ているといいと感じました。全て大事なことですけれども、例えば人口減少というのは、今とても問題になっているのか、地域の課題ということを具体的に考えたときに、幾つかキーワードが出ると思うんです。そのキーワードを示すことで地域課題の解決という明示できると思うんです。菅沼委員がおっしゃった中で印象に残ったのは、特徴的な公民館の配置でしたが、そのような地理的關係活かすことができないかと思いながら、お聞きしていました。

お聞きしたいのは、小金井市の中で、この将来像にある地域課題の解決といったとき、地域課題はたくさんあると思いますけれども、例えば3つぐらい大事なことを挙げるとすると、具体的にはどういうことになるんでしょう。そういうキーワードが、例えばサブタイトルとして入っているとか、そういうことでもいいのかなと思ったのですが、いかがですか。

國分委員長 いいですか。

中川庶務係長 庶務係長です。前回ちょうど吉富先生がご出席できなかった回ですが、第13回審議会当日配付資料として、公民館に係る現状課題、将来像の検討についてという資料を事務局からお示ししております。吉富先生から、小金井市らしさ、おそらく小金井市の課題からきっと出てくるだろうというご指摘をいただいて、そのとおりになんですが、もう一方で見ると、小金井市と隣の武蔵野市と、そこまで激しい何か大きな違いがあると言われると、例えばさっき菅沼さんからおっしゃっていただいた公民館の配置がとてもいいとか、そこから生まれている団体さんがあるとか、そういったことにはなるんですが、一方、人口減少とかになると、武蔵野市と小金井市とでそこまで大きな差はないのかなと考えているところではあります。

そういったところではあるんですけれども、小金井市の課題としては、例えば今、駅前、すぐそのところで大きいビルをつくっています。人口はしばらくは増える予定です。おそらくそのマンションも、きっとお子さん連れの世帯がいっぱい入ってきてくれるんじゃないかなと期待しているところで、おそらく子どもも増えるというような推計も市

ではしているんですけども、増加もいずれ頭打ちになるだろうというのが、長期的な人口推移の見込みです。しばらくはにぎやかさが続いていくけれども、いずれそれはストップして、やはり高齢化がすごく顕著になってくるだろう。

あと、小金井市は基本的には住宅の都市だというふうに思っております。住宅街の占める割合が非常に多い。戸建ての住宅等で世帯の構成人員が減ってきているので、おそらくひとり暮らし高齢者数が増えていってしまうだろうと。坂があるので、特に坂下エリアになると移動が少し困難になってくるといったことも考えられます。コミュニティバスも走らせていますが、ひとり暮らし高齢者の方が移動が困難になったりするということが想定される。

とはいっても、健康寿命という指標があるんですけども、それで見ると、小金井市の高齢者の方は非常に元気な方が多い。ひとり暮らしであっても、外に出て行って活動している方も、実は結構多い。そういった方に公民館に来ていただいて、グループの平均年齢はすごく高いんだけど、みんなまだまだ元気で、すごく活動していらっしゃる数が多い。それこそ学芸大学さんとか、ほかにも市内には大学がいろいろあって、包括的協定を結んで、お互いに協力関係も築けてきているというような地域資源もあるので、こういったことについてはプラスの材料として、公民館活動の中でも生かせる部分なのかなと思っております。

細かく見ていくと、おそらくもっといろいろな課題は出てくるんですけども、こういったことがあると思っています。

菅 沼 委 員

関連して、課題というのは、それぞれの捉えている人によって違ってくると思うんです。共通の課題は何かというのが、今、聞かれているんだと思うんです。

例えば、小金井は若者がなかなか定着しない。学校はあるけれども、学校が終わってしまうと、どこかへ行ってしまふ。せっかくそんなにいっぱいいるんだったら、もっと小金井でそういう若者が活動できる場がないだろうとか、そういうものも一つの私の思っている課題です。それから、子育てにほんとうに優しいまちであるかということ、例えば待機児童の問題とか、いろいろあります。そういう問題も大きな課題だと私は思っています。

そういう課題は、人によって違うと思うんです。行政がどういう課題と捉えているかはわかりませんが、課題を幾つか挙げようとしたら、そのようなテーマは幾つかあると思います。

吉 富 委 員

今お聞きした中では、具体的に子育てとか若者の活躍の場、健康とか、人が移動する環境のこととか、幾つかキーワードが出てきたので、具体的に書き過ぎたら絞り込むような形にはなってしまいますけれども、先ほどの計画の関係の中で具体的な内容としての位置づけの将来像であれば、小金井市だから、こういうことを目指すんだというところがわかるようなキーワードが少し入ってくるほうがいいと感じました。今のご説明はととてもよくわかりました。

國分委員長　　いいご提案だと思います。学びから始める地域のつながりづくりというキーワードというか、スローガンは、やはり一般化し過ぎているかな。もっとインパクトの強いという意味で、今、先生がおっしゃったような小金井市の課題を列挙して、うまくまとめていただいたほうがわかりやすいかなと思いましたが、ほかに。

あと、学校がすごく古くなっていて、施設の老朽化の問題との関係とかもあるようですが。

畠山委員　　先ほどの話にまた戻るんですけれども、地域のコミュニティというんですか、今月、南センターでお祭りがあって、私も参加しましたけれども、そこには高齢者も子育て世代の母親も子どもたちもいっぱい集まってくるんです。年々集まってくるんですよ。公民館という場を通じて集まってきている。みんなでコミュニティを図っていく。地域の集まりは人が減らないということを考えたときに、やはり公民館を中心として地域のコミュニティを強化していく。

先ほどいろいろな意見も出ていましたけれども、やはり問題は、学びの場なんだけれども、コミュニティがないと、なかなか学びの場も拡大していかないと思うんですよ。だから、公民館として、地域のコミュニティをどうやって拡大していくのか、どうやって浸透させていくのかということ考えたほうが、私はやはり公民館を中心とした地域の住民の発展、情報の共有、あるいは災害とかいろいろなことに対する対応もできるのではないかということ、もう少し現実的に公民館運営審議会としても発信していけばいいのではないかなと感じています。

國分委員長　　例の地域図というか、菅沼さんに示していただいた資料の中のこれだと、コミュニティづくりの中心になれるということですね。

畠山委員　　おっしゃるとおりです。そのとおりだと思います。

國分委員長　　ほかに何か。酒井さんはいかがですか。

酒井委員　　将来像なので、未来のことを考えなければいけないわけですよ。でも人口の面、今、小金井市は微増なんですよ。現在、微増ですよ。

西村公民館長　　小金井市自体は増えているようです。

酒井委員　　人口推移の試算は、どこかでやられていますよね。そういう資料なども見ると、どの辺で人口が伸びて、どの辺で落ち込むみたいなのところが出てくるのかもしれないですけれども、やはり公民館でやっていることを知らしめることが一番大事で、こんなことをやっているんですねというのがあると、いろいろな世代の人たちも参加できると思うんです。

事業の報告のところがありましたけれども、高齢者向け、それから子育て世代向けとか、いろいろなバリエーションがあるんですけれども、全部を統合したような事業がなかなかない。先ほど畠山委員がおっしゃったお祭りなんかだと、そういう人たちが全部集まってくるみたいなのところがあるんですけれども、そういうものを将来、いろいろな世代が参加できるような仕掛けをつくって、人口がどう動いても、いろいろな世代の人たちが集まってこられるような仕掛けがあれば、それこそコミュニティとしての役割を果たせるようになるのではないかと思うので、ピ

ンポイントだけではなくて、全体にかかわれるようなものを何か考えていくのも大事なかなと感じました。

國分委員長 館長のほうから出された将来像のところ、今、手直しがちょっと出ているので、どうでしょうか。

菅沼委員 では、1つの意見。「学びからはじめる地域づくり」というのは、それはそれでいいと思うんだけど、私は、学びを主体とした地域の市民活動の拠点として位置づけると、はっきりしてほしいんだよね。

國分委員長 そうですね、市民活動の。私もそう思います。

菅沼委員 その位置づけができれば、あと将来像はいろいろ出てくると思うんですよね。では、どうしようかと。そうなるためには、こういうふうにするべきではないかとか、こういう課題解決もやっていかなければいけないのではないかと。そうすると抵抗が多いかな。

國分委員長 このスローガンはちょっと変えてほしいというか、それか、サブタイトルをつけるとか、課題を出したりとおっしゃっていましたね。

菅沼委員 私は、今言ったような言葉にしてほしいと思っています。

國分委員長 そうですね。活動の拠点というところをちょっと強調したいですよ。

畠山委員 菅沼委員がおっしゃるように、学びの場って、我々の目線からすれば、そうなんです。でも、地域のコミュニティから考えたら、学び、学びということが前に出てくると、引くんですよね。

國分委員長 そうですよ。集い……。

畠山委員 コミュニティ、地域のつながりというところを軸にして広めていくというのが大事であって、あまり学びを強調すると、一瞬引く人が出てしまう。

國分委員長 ちょっとぼやっとしていますよね、学びって。

畠山委員 そうです。

國分委員長 私の意見で申しわけないですが、菅沼委員は、集いから始まっていたよね。そっちのほうがいいのではないかなと思うんです。

吉富委員 学びというのは、例えば大学が多いとか、教育資源のことに注目してのキーワードということですね。

菅沼委員 いや、公民館というのは、基本的に課題を学ぶところではないかと。

吉富委員 学びを支えるいろいろな教育資源が小金井市にはたくさんあるという意味の、そこでキーワードとして学びという言葉が入ってきているのかなと僕は読み取りました。

菅沼委員 そうですか。

吉富委員 1つ確認したいのが、将来像というのは、この中長期計画のゴールなのではないかと、イメージする将来とは何年くらい先なんですか。

國分委員長 何年ぐらいかと。

西村公民館長 公民館長です。吉富先生がおっしゃるように、目標、ゴールという部分は想定していますけれども、これが期間として何年かと言われますと、今のところ、はっきりとそこまでは定めていないです。

吉富委員 この計画に対応するゴールではないわけですか。もっと長期的な話で

すか。

西村公民館長 中長期計画の中で、計画に対応するゴールというふうに考えています。

菅 沼 委 員 そうすると、計画は終わりが平成33年だったでしょう？

西村公民館長 いや、計画期間が平成33年度からです。

菅 沼 委 員 そのころに市の基本計画もつくるわけでしょう。

西村公民館長 そうですね。

菅 沼 委 員 それに向けて、やっているわけでしょう。

西村公民館長 そうですね。

菅 沼 委 員 そのあたりが将来像の対象年度じゃないの？

中川庶務係長 庶務係長です。菅沼委員がおっしゃっている平成33年というのは、我々が平成33年までかけて、あと2年かけてつくりましょうというスケジュール期間でして、作った計画の射程とする、よく計画期間という言葉で言うのですが、計画期間は平成33年から始まります。現在の小金井市基本構想・基本計画は、平成28年度から32年度までを計画期間にしております、平成33年度から新しい計画期間が始まります。生涯学習推進計画も、平成28年度から32年度までの5年間を計画期間としております、平成33年度から新しい計画期間が始まります。なので、我々の中長期計画についても、平成33年度から新しい計画としてスタートして……。

西村公民館長 では、私から説明すると、中長期計画ということで長期という部分も入っているので、計画期間としては一般的には10年先を見据えたものになります。

吉 富 委 員 10年というイメージがあれば、それぐらいのイメージで具体的に言葉も出していけると思います。

西村公民館長 一方、中期的なものも中に入っているという部分もあるので、5年ぐらいで見直すイメージも持っています。全体としては10年間というところで現在のところは考えています。

吉 富 委 員 それを想定した将来像ということですね。

西村公民館長 そういことです。

吉 富 委 員 わかりました。

菅 沼 委 員 平成33年度から次の計画が始まるのだったら、これは、それに向けての計画じゃないの。だから、平成33年ごろをイメージして議論するのではないですか。

西村公民館長 計画期間の開始が平成33年度から、長期になると10年ぐらいで、多分吉富先生が言ったのは、将来像というのは、その最後の計画のゴールを見据えて考えるということなので、10年後どうなのかということを見据えた上の将来像というイメージ。

國分委員長 大体その辺はいいですか。2年後から、今考えるものを実施に移していく。それで、10年ぐらいでほぼゴールに行こうという認識でいいんですよね。

菅 沼 委 員 それと、有料化とか、後で出てくる個別案件があるでしょう。そんな

ものも33年以降でいいという考えでいくのか。そうじゃないでしょう。いろいろ個別案件があるでしょう。そういうものは、では将来像が33年以降を狙っているのだから、そのころに漠然と達成すればいいんですよというのだったら、それが一番楽でいいけれども、そんなものじゃないでしょう、あとの案件を考えると。

畠山委員

もう平成が終わるんですよ。今年から、元号も新しく変わるんですよ。時代が変わって、天皇陛下もかわる。そのときに、平成31年はこう、33年はこうでしたというのではなくて、新しい時代にふさわしいような公民館のあり方ということも考えていかないと、いつまでも平成、平成と言っている、時代は変わっていくわけです。今年前半に変わってしまうわけですから、それを我々がどうやって捉えて、新しい元号の時代、新しい天皇陛下の時代にどうしていくのかということも、ぼやっとしてもいいですけども、もう少し考えられたほうがいいのではないかなと思います。元号は確実に変わりますから。

國分委員長

公民館は、菅沼さん、地域活動の拠点にしろとか、コミュニティの中心になろうとか、何かそういう形でいいんじゃないですか。それで12、13年間ぐらいを目途にする。どうなんでしょう。この言葉は、ちょっと変えたほうがいいと思うんです。

中川庶務係長

別に1行でなくてもいいと思っています。サブタイトルをつけたでもいいので。キーワードがいっぱい入って、文章的になっても構わないというふうに思っております。

國分委員長

吉富先生のほうで、キーワードは何かありますか。

菅沼委員

私がさっき言っていた、この資料に載っているようなことを入れてもらいたいと。

國分委員長

それをもう一回言っていていいですか、菅沼委員。

菅沼委員

基本的には、先ほど学びというのは要らないと言ったけれども、一応学びを主体にした、ここに書いてあるとおりに。

國分委員長

でも、集いから始まったら。

菅沼委員

集いからいったら切りがないから。

國分委員長

いや、でも、集いのほうがわかりやすい。

菅沼委員

地域の市民活動の拠点と位置づけると。

國分委員長

地域の……。

菅沼委員

市民活動の拠点。

國分委員長

はい。

菅沼委員

社会教育設備として今後残すのであれば、私は学びというのをに入れておいてもらいたいなと思っています。

國分委員長

地域の市民活動の拠点にしようと。拠点として、それで学びはどこに入れますか。

菅沼委員

だから、私は一番初めに学びを主体としたと入れたいと思っているんだけど、意見がいろいろあるから、それを議論したらいいと思う。基本的には、地域の拠点だというふうに位置づけるのが一番ではないかなと。

國分委員長　私もそういう意見です。私が意見を言ってしまうても、あれですけれども。  
 畠山委員　おっしゃるとおりです。やはり地域の拠点なんですよ。学びを強調してしまうと引くんですけれども、地域の拠点なんですよと。その上で、いろいろな学びとかコミュニティが出てくるんですよということを強調したほうがいいと思います。  
 國分委員長　では、地域の市民活動の拠点を中心にしてサブをどうするか。  
 酒井委員　酒井です。市民活動の拠点という言葉は、ちょっと強くないですか。最初に入っていくときに、もっと柔らかい感じでみんな集ってきて、そこでいろいろ学んでいって、その先の活動に持っていくというのがあるんだけれども。  
 國分委員長　もちろんそうなんですけれども、ちょっとインパクトが強いほうがいいかなと思って。集い、学び、つながる、結ぶとか。  
 酒井委員　集いという言葉は、すごくいいと思うんですけれども。  
 國分委員長　私も、入り口は集いがいいんじゃないかなと思います。  
 中川庶務係長　拠点のかわりに集いという言葉を使うと。  
 國分委員長　出だしが集い、学び、つながるとか、結ぶ。  
 菅沼委員　出だしは市民活動の拠点をもうちょっと柔らかくするとしても、市民活動の拠点として、サブタイトルが集い、学び……。  
 國分委員長　学び、結ぶとか、つながるとか。  
 菅沼委員　結ぶとか、そういうサブタイトルを入れたらいいんじゃないのと。  
 國分委員長　どちらかですね。  
 酒井委員　多分順序があると思うんですよ。活動までの順序があると思うので。  
 菅沼委員　それは集い、学びですかね。  
 國分委員長　集いがいい気がする。  
 菅沼委員　では、集い、学び、結び。  
 國分委員長　そう、結び。それがいいと思いますよ。  
 菅沼委員　もう一つ加えれば、それでサブタイトルですよ。地域の拠点というのは、そういう意味で使う。  
 吉富委員　菅沼さんの資料2の図はとでもわかりやすかったんですけれども、この中に、育てるとか結ぶとか、あと気軽にというのも私は印象的でしたけれども、そういう少し促すような柔らかい感じの言葉が入っているといいですよ。  
 菅沼委員　そうすると、市民が誰でも気楽に、気軽に集い……。  
 國分委員長　でも、あまりそんなに説明しないほうがいいと思う。  
 吉富委員　キーワードの候補を幾つか挙げて、その中から選択するとは思いますが、まずどんなものがあるかと。  
 菅沼委員　市民活動の拠点は、きついか。市民……。何だろう。  
 國分委員長　それをサブにしたら、どうですか。  
 菅沼委員　何にしたらいいのかな。  
 國分委員長　初めに、集いから始まったものをおいて……。  
 菅沼委員　集い、学び、結ぶでしょう。それで、育てるかな。育つか。それぐ

らいかな。

國分委員長  
菅沼委員

育つは自然だからいいと思うんですけれども、あまり長なくて。それはサブタイトルだね。やはり市民活動とか市民何とかの核となるとか拠点となるとか。

國分委員長

そうそう、核。拠点というと、ちょっと学生運動みたいな感じで。市民活動の核とか……。

菅沼委員

中心とか。

國分委員長

ええ、何かそういう。

菅沼委員

市民活動は、言葉が強いかな。

國分委員長

市民活動というのが、やはりちょっと強いんですかね。

酒井委員

でも、この年代だから、そう感じるのかな。もっと下の年代だったら、別にそんなことを感じないかもしれないですけども。

國分委員長

当たり前ですものね。

酒井委員

お若い方はどうですか、一番お若い方。

國分委員長

雨宮さん、どうですか。何かつけ加えて。

雨宮委員

難しい問題なので、私もはっきりわからないですけども、子育てのことも一部、ちょっと入れておいてもらったほうがいいかなと思うんです。

菅沼委員

具体的な活動の内容だよな。

國分委員長

そこまでは最初に入れられないかなと思います。

菅沼委員

だから、学ぶという中に子育ても入ると考える。

吉富委員

育てるというキーワードもありましたね。

國分委員長

4つ入れるかどうか。

菅沼委員

そうか。集い、学び、育ちか、育てるか。集い、学び、結び、育ちか、育てるか何か入れるかね。

國分委員長

そこまで説明する必要があるのかな。平野さん、何か。介護の問題とかを抱えて、いろいろ特殊な集団の教育みたいなものもなさっているようなので。

平野委員

最初に目につくところはシンプルなほうがいいですよな。

國分委員長

そうですよね。そうだと思う。渡邊さんも、もっとご発言ありますか。

渡邊副委員長

私は、個人的にはいろいろ高齢者の問題とか子育ての問題とかあるので、その問題を解決してくれる場所が近くにあるといいなという感じがして、小金井の場合、6カ所ですか、そういったものが割合近所にある、学校の近くにもあるということで、非常にいい場所にあるということで、市民がみんなそう思っているわけではないと思うんですけども、ただ、そういうものもあるということで、それを表題の一部に、わかるような表現で加えていただくといいと思うんです。

國分委員長

今出たようなことを勘案して、スローガンはちょっと直してほしいなと。

菅沼委員

みんなに募集する？

中川庶務係長

電話でもメールでも、こういうものを思いついたというのがあれば、ぜひお寄せいただきたいです。

渡邊副委員長 1行でなくていいような気がします。これだけあるので、幅が広いから。

雨宮委員 雨宮です。公民館は何をやっているんだということをよく聞かれるんですよ。そのような形で、もうちょっとわかりやすい……。

國分委員長 押し出していくやつですね。

雨宮委員 ええ。そういうものを入れていただければいいと思うんです。

菅沼委員 私は、そういう意味で、今日やったような図をもっとシンプルにつくって、もっとみんなにわかりやすくつくらなければいけないと思うけれども、そういうものをつくっていったら、PRも一つの公民館の役目ですよ。

國分委員長 そうですね。

菅沼委員 文章よりも、確かに今日みたいな図のほうがわかりやすいかもしれない。もっともっとシンプルにしたほうがいいと思うけれども。

吉富委員 これは、つくるのに相当時間がかかる作業だと思うんです。でも、これがスタートしないと、そういうシンプルな表現ができないので。

國分委員長 センター化できないということですがけれども、センターにいる団体とのコミュニケーションは積極的に公民館もやる。問題が出たものを学習して、センターのほうに持ち込むということですよ。

今日の課題については、このぐらいで協議……。あと、まとめなくてはいけないのか。

菅沼委員 いいんじゃないの。次回もあるし。

國分委員長 いいですよ。

西村公民館長 はい。逆に、たたき台を提示して、皆さんから意見をいろいろもらって、また、うちのほうでちょっと確認していくということで。

菅沼委員 ここは、じっくりかけたほうが良いと私は思うよ。

國分委員長 そうですね。

菅沼委員 そういう考え方をみんなで共通認識すれば、あとの問題は進んでいくと思うからね。

國分委員長 だから、一応大体共通認識は……。

酒井委員 酒井です。公民館はどういう役割があるのかということ考えたときに、先ほどおっしゃった、学びによって、いろいろなことをそこから発展させるのであって、例えば子育てとか福祉とかは、もうそれに特化した団体があるわけですよ。だから、特化した団体があるのだけれども、では公民館はそういう課題について、どういうふうに……。

國分委員長 具現化というか。

酒井委員 かかわっていくのかとか、そこだと思っただけです。例えば、福祉関係の団体みたいなことを公民館がやれるわけではないので、やはりもうちょっと時間をかけたほうが良いですよ。

渡邊副委員長 私は、公民館が全て事業をやるというよりも、簡単に言うと、紹介でいいと思うんです。

酒井委員 そうですね。

國分委員長 きっかけづくり。

渡邊副委員長 近くの公民館に行くと、専門のところを紹介していただくとか、適切な人を紹介していただくとかね。

酒井委員 酒井委員 渡邊副委員長 酒井委員 渡邊副委員長 國分委員長 渡邊副委員長 國分委員長

また、それとも違うかなと思うんです。  
まず来ていただくには、そういう窓口も必要だと思うんですよ。  
何か、そういうことの関連の学びができるところということかな。  
そういうこと。  
詳しく調べたい人は、センターへ行くなり何かというのでもいいし。  
きっかけをつくるということですかね。  
きっかけづくり。あとは、公民館として、何か具体的にいろいろ事業の中にも取り入れられているものがありますよね。そういう講座から示していくとか。  
今日の協議事項は、一旦この辺でいいでしょうか。どうですか。

菅沼委員 國分委員長 菅沼委員

いいよ、大体ね。  
いいですか。では、今日はここまでにして。  
すみません。スローガンとか、その辺の意見があれば、集約しておいてもらったらどうなのかな。もう一回、次回もやったほうがいいような気もするけれども。

國分委員長 菅沼委員 國分委員長 菅沼委員 國分委員長 菅沼委員 國分委員長 菅沼委員

一応、今、集い、学び、結ぶ……。  
もう決まったのなら、決まったのでいいよ。  
育てるを入れるかというのがありますが。  
集い、学び……。  
学び、結ぶ。  
学び、結ぶがサブタイトルね。  
いや、どちらがいいかは……。  
地域の市民活動の拠点か核となると。活動がいいかどうかというのは、また議論してもらおう。もうちょっと違う言葉、柔らかい、市民参加の核となるでは弱いよね。市民交流かな。

國分委員長 菅沼委員

ちょっと強いほうがいいと思うんです。逆に、反論が出るぐらいの感じもいいかなと。  
私は、公民館は地域の市民活動の核となる。サブタイトルは、集い、学び、それから結ぶ。育てるなんていうタイトルを入れるか。入れても、そのぐらいですね。

國分委員長 菅沼委員 國分委員長

育てるのは、ちょっと高圧的な感じもする。  
育っていく？  
もし具体的な言葉が出てきたら送っていただくとかでよろしいですかね、今日のところは。

（「はい」の声あり）

國分委員長

では、協議事項は以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

### 3 審議事項

#### (1) 公民館事業の計画について

國分委員長 公民館事業の計画について、お願いします。  
 大久保事業係長 事業係長です。お手元にお配りしております送付資料（３）、公民館事業の計画をご説明させていただきます。  
 今回、貫井南分館２件、東分館３件、緑分館１件、及び貫井北分館７件の合計１３件の事業を提出しております。ご意見、ご質問等ありましたら、よろしく願いいたします。  
 以上です。  
 國分委員長 ありがとうございます。質問、ご意見ありますか。若者コーナー、すごいですね。  
 ちょっと聞いてもいいですか。事業計画は公民館の企画実行委員とかがいろいろ討論して、なさるんだと思うんですけども、それこそ今の小金井市の問題とか、そういうことを追求しながらやっておられるのでしょうか。貫井北分館の館長さんのお話を聞きたいなど。若者コーナーとか多いし、健康づくりとかも、選定の仕方とか。  
 村山分館長 貫井北分館の村山です。公民館の講座は、ほかの公民館と同様に企画実行委員と考えています。ただ、貫井北の特徴と特色であります青少年センター的な役割の一つとして、そういった対象の講座も大きい事業の柱であります。  
 私を含めて、年齢の高い人が幾ら時間をかけて一生懸命情報を収集しても、やはりミスマッチを起こす可能性が大きいのですが、幸い、きたまちYAサポーターという、図書館、公民館を支えるサポーター制度を開館当初から構築しています。そういった学生の方々と一緒に、１０代、２０代、小学生、中学生の子どもたちがどういったことを悩んでいるのか、知りたいのかキーワードをいただいて、公民館職員はそれをサポートして、若者に関心があって、自分たちの意見が形になるという達成感みたいところまで、実際に自分たちが考えて事業としてやって、参加者に喜んでいただく、そういう一つのサイクルがありまして、YAサポーターの方々の意見も聞きながら企画しております。  
 國分委員長 ありがとうございます。定員は少ないですか。こんなものですか。  
 村山分館長 座学とはまた違いますので、先ほどの集う場であったり、学校間の、よく斜めの関係と言いますけれども、高校生のお兄さんがちょっと年下の小学生、中学生といった、小学校での縦ではなくて、斜めのそういう状況なので、あまり人数を増やしても、座学みたいなものではありませんので、いい意味で小人数でやっています。ただ、定員はありません。  
 國分委員長 ありがとうございます。そういう動きもしているということで、あと何か。  
 酒井委員 酒井です。今回の事業で、保育が全部なしですけども、保育をつける、つけないの判断基準は何かあるんでしょうか。単純な質問で、すみません。  
 大久保事業係長 本館を例に申し上げますと、子どもの人権講座というものですけども、これは基本的に保育つきの講座として、子育て中のお父さん、お母さんを中心に対象としてやっている講座かなと考えております。それ以

外ですと、テーマに応じたという感じで、保育つき、保育なしで講座を企画しているといった答えになるかと思います。

以上です。

酒井委員 募集人数とかは関係ないですか。

大久保事業係長 引き続き、お答えいたします。募集人数につきましては、消防法の関係がありますので、押さえている部屋に照らし合わせて、募集を何人ぐらいでいこうかということで、あとは講師との調整で決めております。

酒井委員 何で質問したかという、味噌づくりの講座は、多分、成人学校だから、これは若い方も別に入ってもいいんですかね。

國分委員長 保育をつけなくても、子どもを連れてきてやったっていいんじゃないですか。

酒井委員 やってもいいのかな。そういうときに小さい子を見てもらえると、できるかなと思ったんです。

國分委員長 自然にできていくというか、それもいいんじゃないかなという気もしますけれども、すみません、ありがとうございました。

その辺、さらに何か言いたいことがあったら、館長。いや、館長というか、実際にやっておられる館長さんたち。いろいろ伺うと、理由があるようなんです。絶対保育つきでないといけないと……。

この市ではやっていないと思うんですけども、赤ちゃんを連れていくコンサートというの、中野とかは結構やっていますよね。それは保育なしでも連れていけるので、そういうこともちょっと。

鈴木分館長 東分館で、保育講座につきまして、実は今日、男女共同参画講座で女性の再就職をテーマにした、おおむね50歳までの女性を対象とした講座をやっております。受講者が今9名で、そのうち3名が保育を、今日は直前に風邪をひいたということで、私がちょうど出てくるときは2名ということで聞いておりました。

そういったことで、対象講座、女性あるいは割と若い層を対象とした講座につきましては、東分館では保育をなるべくつけるようにしております。今年度、実際3講座を実施しております。そのようなことで、内容あるいは対象によって、保育につきましては、日本の将来を担う子どもたちは宝だと言われているので、少しでも地域でサポートしていただけるように、なるべく保育つきとしてやるように心がけております。

以上です。

國分委員長 ありがとうございます。努力していただいていると思います。

では、ちょっと時間がなくなってきました……。何か一言。

雨宮委員 雨宮です。館長さんたちにお聞きしたいんですけども、今、子育てのことが出たんですが、聴覚障害の方がいらっしゃると思うんです。その方のために手話通訳をつけているときはありますか。

國分委員長 それもありますよね。保育と手話ということですか。

雨宮委員 保育は今お聞きしたんですけども。

國分委員長 手話の講座もありますよね。

雨宮委員 手話をつけていらっしゃる？

大久保事業係長 事業係長です。今年度につきましては、手話通訳者の方にご協力いただき、シルバー大学で手話通訳をしております。

雨宮委員 そういうところに頼んで、参加者に不便がないようにして頂きたい。

大久保事業係長 そうです。

雨宮委員 大変ですけども、よろしくお願いします。

國分委員長 ありがとうございます。よろしくお願いします。

#### 4 その他について

國分委員長 では、最後、中川さんにご説明いただく公民館大会のことです。

中川庶務係長 庶務係長です。来月2月3日に第55回東京都公民館研究大会があります。ご参加を申し込まれている方は、先ほど菅沼委員からもご説明がありましたけれども、ご希望いただいた課題別集會に全員希望どおりで参加いただけるということになっております。自分が何を希望したのか忘れたという方は、後で聞いていただければと思います。

國分委員長 はい、お願いします。

中川庶務係長 再確認ですけども、2月3日日曜日の10時から4時までで、場所は東大和市公民館、駅からバスに乗っていくルートがありまして、そちらについては交通費の予算をつけております。お昼事情がよろしくないようですので、自分で何か持っていったほうがよいと思っております。

あと、皆様のお手元に今日の資料の中に第55回東京都公民館研究大会の報告会の會議についてのお知らせが1枚入っていたかと思ひます。

國分委員長 これですか。これでいいのかな。

中川庶務係長 研究大会の小金井報告会ということで、2月5日火曜日、本館の学習室Bで研究大会に出て、どのようなことを感じたとか、こういうことを発見したとか、出席者同士で報告をし合って、研究大会に出席した効果を高めようという趣旨です。研究大会に出られなかった方でも参加できまして、情報共有できます。皆様お時間あわせてご参加いただけたらと思ひます。報告会の出欠はとりませんので、当日学習室Bに直接いらしていただければと思ひます。よろしくお願いします。

以上になります。

國分委員長 では、2月3日の件と2月5日の件はよろしいですか。

(「はい」の声あり)

國分委員長 以上で、今日の會議の課題は終わりです。よろしかったですか。では、ぎりぎりまでできてしまいましたが、以上で終會させていただきます。どうもありがとうございました。

— 了 —